

第10回講義 (20120706)
§ 4 同一性言明の意味について (続き)

§ § 4 同一性言明の意味について、佳境へ

2 真理条件意味論への批判(その1)

Kripkeは次のような定義と記述の区別を行った。

①単称確定記述句によって指示を固定する定義

「オバマは、現在のアメリカ大統領である」

②単称確定記述句による記述

「オバマは、現在のアメリカ大統領である」

真理条件意味論では、定義と記述の区別ができない。なぜなら、真理条件意味論では、記述言明の意味を説明できたとしても、定義言明の意味を説明できないからである。なぜなら、定義言明は、真理条件をもたないからである。

① 定義は、記述ではない

記述も定義も、事実に言語をあわせることである。しかし、記述の場合には、事実に合わせてすでにある語を配列して文を作ることであるのに対して、定義の場合には、事実に合わせて新しく語を作ることである。あるいは、新しく作った語がある対象を指示することにすることである。

② 定義は、真理条件を持たない

「オバマはだれですか」という問いに「オバマは、キューバの大統領です」と答えたとしよう。この答えは、偽である。しかし、答えた人はそれが真であると考えており、聞き手に「オバマ」が誰のことかを教えているつもりであるとしよう。これはその意味で定義になっていない。しかし、「オバマは現在の USA 大統領である」と答えたとしても、これは、正確にいって定義ではない。これが真であるとしても、この返答によって、「オバマ」という固有名がはじめて定義されるのではないからだ。

定義は、名前に始めて、固定指示を与える行為であろう。ある赤ん坊に「オバマ」と命名したとき、それが「オバマ」の定義である。これによって、「オバマ」という固有名の使用方法が決定したいえる。このような厳密な意味の定義の場合には、偽になることはありえない。したがって、定義は偽でも真でもなく、真理値を持たないか、あるいは定義は常に真であるか、のいずれかである。

前者の場合には真理条件を持たない。

後者の場合は真理条件を持たないということもできる。なぜなら、あらゆる場合に真になるのであれば、その真理条件は、あらゆる場合に成り立つような条件である。そのばあい、すべての定義言明が同じ真理条件をもつことになる。そうすると、すべての定義の意味が同じであることになる。これは不合理だ。

したがって、定義言明は真理条件を持たない。

*この批判に対しては、真理条件意味論は、真理理論を採用し、真理理論は語の定義を、最初に公理として設定し、その公理にもとづいて、T 文を定理として導出するのであるから、上記の批判は、真理条件意味論には妥当しない、という反論が予想される。これの検討は、後に行う。

3 同一の同一性文の異なる言明の意味の差異は、問答関係の中で明らかになる。

・問答において、問い合わせの発話の理解において、何が理解されているかに応じて、返答の同一性言明の理解において、何を理解するかが異なる。

(1)「オバマは、だれですか」

他の人が「オバマ」について話しているのを聞いて、「オバマはだれのことですか」という問い合わせで、オバマについての単称確定記述句を求めている。この問い合わせに、「オバマは、現在のアメリカ大統領である」と答えるとき、これは、<単称確

定記述句によって指示を固定する定義>である。

①「オバマ=現在のアメリカ大統領」

(2)「オバマは、何をしていますか」

以前からオバマを知っていて、オバマの近況を尋ねているとしよう。この問いに、「オバマは、現在のアメリカ大統領である」とこたえるとき、これは<単称確定記述句による記述>である。

②「オバマ=現在のアメリカ大統領」

①と②は、焦点の位置は同じであり、どちらも右辺の名詞句にある。しかし意味は異なる。①は「オバマ」の定義であり、②はオバマについての記述である。

(3)「金とはどんなものですか」

金について聞いたことがあるが、正確にはどんなものを金というのか知らないの問うのだとしよう。金がどんなものかを知っている人が、次のように答えるとき、

③「金とは、あそこにあるある品々、または、ともかくそれらのほとんどすべてによって例示される物質である」
これは金についての記述的説明である。これは、<アポステリオリで偶然的(固定指示表現の指示を固定する定義がすでに別の言明で与えられている時)>である。

(4)「金とはなにですか」

「金」という語の定義を問うのだとしよう。答えるものが、次の発話で金の定義を与えるのだとしよう。

④「金とは、あそこにあるある品々、または、ともかくそれらのほとんどすべてによって例示される物質である」
これは<アприオリで偶然的な指示を固定する定義>である。

このとき、(3)と(4)の違いは、明確だろうか。

自然種名のときには、記述と定義の区別が曖昧である。定義によって、対象を確定するとき、それは語の意味を説明しているといえるが、同時に、対象の性質を記述しているとも言える。「金」の定義を与えるとは、「金」に属する対象の集合を定義することである。このための方法は、その集合に属する対象だけが共通に持つ性質を述べることである。言い換えると、対象金だけが共通にもつ性質を述べることである。

固有名の場合には、記述と定義の区別は明確である。なぜなら、たとえば固有名「オバマ」は、そもそも Sinn を持たないので、語の Sinn の説明ということがありえないからである。記述はすべて、語の意味の説明ではなくて、対象の説明であることになる。

クリプキは、自然種名もまた、意味を持たないと考える。このときには、(3)と(4)の区別は明確であることになる。しかし、自然種名もまた、意味を持つとすると、この区別はあいまいになる。

■固有名の場合の、定義と記述の区別は明確だろうか？

固有名の場合の記述は、語の意味の記述ではなくて、対象についての記述だとしよう。それでは、固有名の定義の場合には、対象をどのようにして特定するのだろうか。「オバマ=アメリカ大統領」が定義だとしよう。このとき、オバマが大統領をやめたとしても、「オバマ=2012年のアメリカ大統領」は真である。他の世界で、オバマが大統領にならなかつたとしても、「オバマ=この世界で2012年のアメリカ大統領」は真である。

つまり、言語について述べているのか、事実について述べているのか、区別できないからである。

4 クワイン「言語と事実の乖離不可能性」、デイヴィドソン「意味と信念の相互依存性」

次のように分けられるかどうかが、そもそも問題なのだが、とりあえず、次のように分けてみよう。

(1)形式的な同語反復の場合、対象も意味も無視できる。

「 $X=X$ 」

(2)意味だけで成り立つことがわかるもの

「4=2+2」

(3)意味と事実で成り立つことが分かる場合

「二重焦点メガネの発明者=初代郵政長官」

「『武士道』の筆者=最初の日本人国際連盟事務長」

(4)意味だけでなりたつか、意味と事実で成り立つか、区別ができない場合

「4つのリンゴ=2つのリンゴと2つのリンゴを足したもの」(?)

「二重焦点メガネの発明者=二重焦点メガネの発明権所有者」

両辺の対象が違っているなら、意味も異なる。しかし、両辺の対象が同じだとしても、意味が同じであるかどうかは、わからない(たまたま同じなのかもしれないからである)。つまり、分析的に真であるのか、総合的に真であるのかわからぬ。(このような例を上げて下さい。)

*言語の意味の理解が違っているのか、事実認識が違っているのか区別できない場合がある

xさんが「それは、オレンジ色だ」といい、yさんが「それは、オレンジ色ではない」というとき、二人は「オレンジ色」について異なる意味を与えているのか、二人にとってのそれの見え方が異なるのか、区別がつかない。

(このような例を上げて下さい。)

言語の意味の違いと、事実認識の違いを区別できないとすると、とすると、意味だけによって成り立つ言明と、意味と事実によって成り立つ言明の区別ができる。

↓

意味の全体論

注:ライブニッツの原理

$\forall x \forall y ((Fx \leftrightarrow Fy) \rightarrow x=y)$ 不可識別者同一の原理

$\forall x \forall y (x=y \rightarrow (Fx \leftrightarrow Fy))$ 同一者不可識別の原理

最終レポートについて	2012年度第一学期 文学部「哲学講義」題目「言葉を理解するとはどういうことか」 大学院「存在論講義」題目「言葉を理解するとどういうことか」
テーマ:	講義内容に関係したテーマを自由に設定してください。 必ず魅力的なタイトルをつけてください。 (例えば、講義で言及した文献を読み、その一部を紹介し分析する。) もし可能ならば次のような形式にしてください。 形式 :問題 問題の説明 答え 答えの証明
分量	4000字程度 (英語の場合、ca.1600 words)

用紙	ワープロ原稿横書き、A4、40字30行で印刷、(英語の場合、12pt. New Times Roman) 上下左右のマージン 25mm
締め切り	2012年8月20日(必着)
提出場所	文学部玄関「入江」のメイルボックス(郵送可、大阪大学文学部入江幸男宛て)e-mailで送るのはやめてください。